

景観まちづくりフォーラム IN うらそえ 2023

浦添グスクを世界遺産に ーグスクと聖地のまちづくりー

宗田好史

関西国際大学教授

京都府立大学名誉教授



この講演の主な内容

- 浦添グスク史跡整備が進み、駅も開業、景観整備！
 - ・景観地区指定を経て質の高い市街地に転換が進む、
- 日本全国でも城下町の整備が進む
 - ・全国の城下町120以上の街で再生が進む
- 新しい世界遺産登録も進み、周辺景観整備が高度化
 - ・百舌鳥古市古墳群、北海道北東北縄文遺跡群、彦根城
- 世界遺産本体と緩衝地帯(バッファゾーン)とは？
 - ・遺産本体と一体となって、世界遺産のOUVを守る
 - ・遺産本体と同様に、訪問客にOUVを感じさせる場
- 歴史都市・浦添は緩衝地帯と歴史環境形成地区を
 - ・周辺の公共事業、住宅、舗装など公共事業にも配慮を

世界遺産(文化財)には緩衝地帯が必要

ゾーン名称	計画上の主な内容
コアゾーン(遺産本体区域)	登録範囲は、完全性をはじめとする「顕著な普遍的価値」(OUV)の証明のために必要な要素を過不足なく含むことが求められる。
バッファゾーン(文化財周辺地域)	資産保護のための区域で規制を受ける。「作業指針」改定版(2005年)からより厳密に定められた。推薦時には資産と緩衝地帯を明記し、その中で開発行為には環境評価が必要
歴史環境形成地域/市街地	緩衝地帯外側に広がり、通常の活動が許されるが、土地利用や景観上配慮がなされる市街地、ここを上手に計画し緩衝地帯を活かす
一般市街地	世界遺産の規制は直接はないが、景観法や歴まち法の計画区域として規制される。世界遺産効果で観光客を迎える配慮が必要に

世界文化遺産の登録

- 1972年に始まった世界遺産条約を1992年に日本政府が批准、今年が条約50周年、批准30年、古都京都の文化財の登録からも28年。
- 北東北北海道の縄文遺跡群、百舌鳥古市古墳群、今年が佐渡を見送り、その次が彦根城か明日香藤原京伝、ユネスコの無形文化遺産登録も進む
- 文化遺産も陵墓、産業遺産、食文化など新たな領域に広がり、保存運動の成果が出た
- 京都の文化遺産のあり方もすでに転換している

彦根城のバッファゾーン

- 1992年暫定リストに記載され残された候補、建造物課（当時）推薦の「姫路城」と記念物課推薦の「彦根城」の違いは『史跡』だった
- 登録を進める過程で、国宝天守閣をもつ5城でシリアル・ノミネーションを目指す動きが出たが、現在単独で推薦書を文化庁と検討中。
- 国宝天守閣、特別史跡城郭（城址）、城下町（武家地/重臣・番組長屋）、城下町（町家）の登録範囲の議論で“城跡”に着目！
- 幕藩体制をどう理解し、どう伝えるかの議論、『預知思想』から象徴性と隔絶性を強調、天空の城『ラピュタ』をイメージした

彦根城：その「象徴的」かつ「隔絶された配置と形態」により2世紀半にわたる安定した社会秩序を実現した世界史的に特殊な統治体制のあり方を伝承する希有な物証。



彦根城保存管理計画では、まず本体に中堀の内側を広く取り入れ、次に城下町全体を緩衝地帯に取り込んだ。加えて琵琶湖と、城の北側に広がる松原内湖と呼ばれる埋立られた農地を広く取り込み、遠くに広がる御城下からの眺めを守ることでOUV(顕著な普遍的価値)を保証する保存のポリシーを訴えた。



夢京橋キャスルロードは、完成当時、最も成功した歴史まちづくりとしてよく紹介された。実際は、区画整理事業で街路拡幅後の建替えを城下町風デザインで統一したこと。隣接地は商店街を飲食店街に再生、観光客が寄る



古都京都の文化財のバッファゾーン

- 1994年登録、姫路城・法隆寺に次ぐ日本を代表する歴史都市、平安遷都1200年記念
- 当時はバブルの余熱が残り、「規制」強化が先行すると登録反対となる怖れから緩衝地帯指定はほぼ伏せられ、既存の規制を継合せ体裁だけを整えた
- しかし、翌1995年市街地景観整備条例（1976年の市街地建艦条例を強化）、2007年新景観政策（6条例改正強化と2条例新設）で本格的な規制に転換
- その後15年、強化した世界遺産緩衝地帯で地価高騰、その隣接地にも好影響が、規制なくば土地は売れず
- 田舎の土建屋が消え、世界中の投資家が集まる街に

城の集客数は毎年イベントで大きく変化

城郭の入場者数(2018年)	
① 大阪城	2,550千人
② 名古屋城	2,208千人
③ 二条城	2,157千人
④ 首里城	1,775千人
⑤ 姫路城	1,590千人
⑥ 彦根城	861千人
⑦ 松本城	743千人
⑧ 犬山城	619千人
⑨ 小田原城	603千人
⑩ 会津若松城	595千人
江戸城	1,488千人

二条城の入場者数推移	
2015年	1,738千人
2017年	2,439千人
2018年	2,157千人
2019年	2,263千人

2010年以降、二条城では様々なイベントで市民を受入れてきた。お城の使い方を考えるべき時期。ユニークベニュー、パチカンでもウフィッツィでも盛んに。



「古都京都の文化財」は1994年の登録、その後30年の間に景観規制が整ってきた。“二条城”は、都心に最も近い“世界遺産”、現在京都市の上質宿泊施設誘致制度を活用して「シャングリラ・ホテル」が建設中、外資系ホテルはそもそも規制がなければ進出しない。進出すれば、住居系用途地域の中でも上質認定を経た特例措置で許可。世界遺産隣接地に慣れたホテルが



建物のデザイン基準イメージ (例)





東山交通対策 危険なほどの雑踏混雑が！

清水～高台寺及び東福寺周辺で実施。公共交通からの円滑な移動、団体バスの制限。



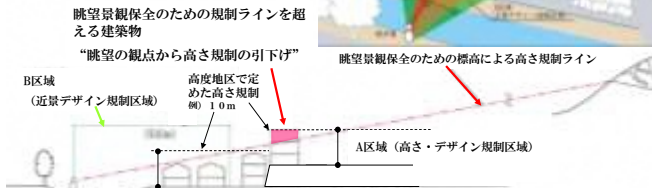
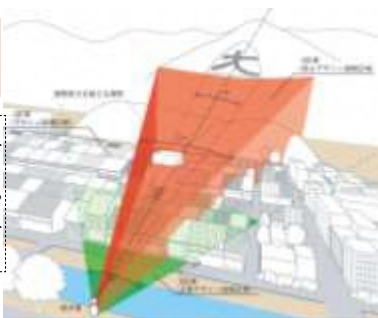
東山カルチュラタン構想

- 東山を辿るアートの道・カルチュラタン構想
 - 崇仁京都芸大発、七条京博経由、
 - 清水坂から産寧坂、陶磁器・古美術街を経て、
 - 伝統芸能パフォーミングアーツの街へ、
 - 白川を辿れば美術館とコンサートホールへの岡崎へ
 - さらに進めば吉田山・京大から白川通芸大へ
- 成熟した京都には、パリやローマ同様の世界の上客がアートを求めてやって来る。
 - 古美術から伝統工芸品、現代アートまで

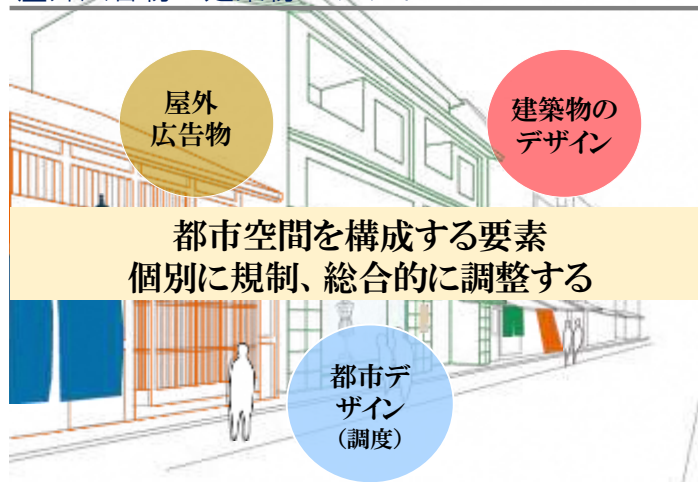
眺望景観・借景の保全 —眺望の観点からの高さ・デザイン規制の考え方—

新条例では、個々の眺望景観や借景の特徴に合わせてきめ細やかな建築物の高さ・デザインを規制・誘導

- 【規制区域】
- A区域（赤の三角形の区域）：高さやデザインを規制する区域。赤色の平面を超える建築物は原則禁止
 - B区域（緑の扇形の区域）：視対象と調和するようにデザインの規制をする区域
 - C区域：概ね視界に入る範囲で、A・B区域を除いた区域。良好な景色を形成するためデザインの誘導を図る区域



屋外広告物と建築物のデザイン



整備計画の概要

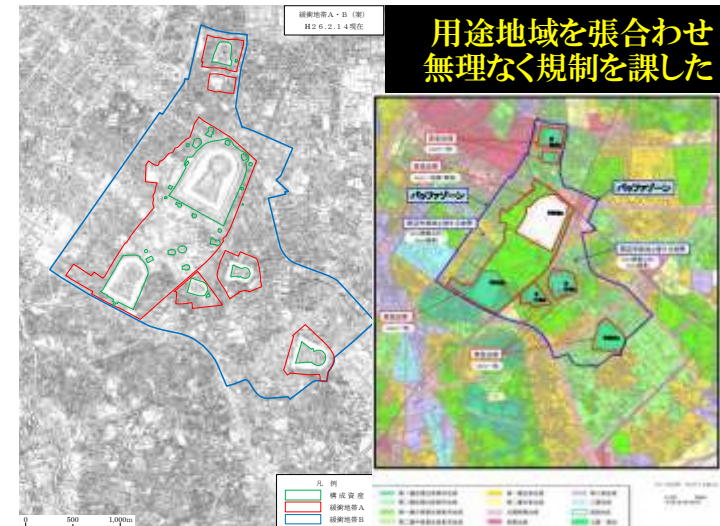


もう一つの“聖域”が世界遺産に！

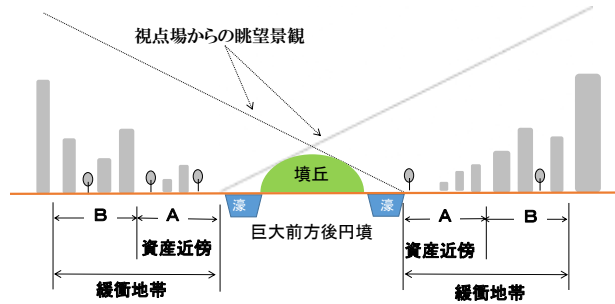
- 古墳時代とはどんな時代か？
- 宮内庁管理の“陵墓”とは何か？
- 百舌鳥古市古墳群をどれだけ日本人が知っているのか？
 - 世界の人がどれだけの人々が注目する？
 - 関空から京阪奈に向かう道筋に、観光客がトイレ休憩？一度は来るだろうか？
- 古墳群はどんな遺産として理解される？

百舌鳥古市古墳群のバッファゾーン

- 日本人忘れていた古墳の時代、記紀以前の日本には文字がない、「倭の五王」
- 東洋のマンチェスターとリバプール、工業都市堺と環濠都市「南蛮貿易の堺」、宮内庁書陵部所管「不可侵の陵墓」大なる空洞
- 近代天皇制からの脱却、皇室財産の取り扱い
- 産業構造転換/人口減少、コンビナートと泉北ニュータウンの時代は終り、文化都市に
- 密集市街地の中の世界遺産、中には高速道路の下にも

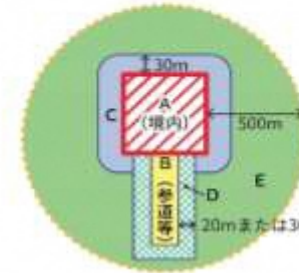


眺望景観にも配慮、墳丘の背後には高度規制が



対象区域の種類	対象行為
A 視点場(境内)	新築、増築
B 視点場(参道等)	
C 視点場(境内)から30mの範囲	
D 近景デザイン保全区域 (参道等から20mまたは30mの範囲)	大規模な新築、増築 (床面積≧2,000㎡以上)
E 近景デザイン保全区域 (境内から500mの範囲)	

境内からの眺め
境内への眺め
門前の眺め



史跡整備の問題点

- ・復原すれば分かりやすいとはいいが、十分な資料がなければ、“捏造”といわれる
 - “歴史”と“伝統”は簡単に発明され、民族主義に
 - “税金の無駄遣い”、それも二流の学者と悪質な業者がでっち上げた“遊園地”アトラクションに
- ・史跡は考古学者の道楽や遊び場ではない
 - 世界中の遺跡で守られてきた”ヴェニス憲章”が簡単に無視される。ホンモノとニセモノ、オリジナルと後補の違いは明確に示す常識を守る
 - 無知蒙昧な観光事業者の意見は聞いてはだめ！
- ・批判、非難されるような史跡整備は止めよう
 - 文化財行政は非民主的、周辺住民に非難される

浦添グスク、統治拠点(城)と聖地(ようどれ)

- ・彦根城は江戸時代/幕藩体制の統治拠点としての城
- ・1992年暫定リスト掲載から30年目の登録、推薦書が完成、保存管理計画では統治の仕組みを強調
- ・百舌鳥古市古墳群は2019年登録、宮内庁所管の陵墓は「静謐と安寧」が基本
- ・浦添グスクは、城と墓の両面から、
- ・そして戦争遺産、沖縄のグスク時代(按司時代)と琉球王国時代を画する歴史遺産であることも浦添グスクの調査から分かっていること。首里城と同等かそれ以上の価値のあるグスクと評価できます。
- ・沖縄モノレールでもっとも簡単に行ける(駅から近い)グスク。
- ・首里城周辺以上に歴史環境を整備し、訪問者を増やす
- ・今後の周辺整備は、世界遺産緩衝地帯とその周辺整備

浦添グスクのポテンシャルについて

- * 琉球王国形成の歴史を語る上で、「浦添グスク」の重要性の再認識が要る。
- * 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は、12世紀前後より各地に現れた按司の築いた石造城砦、拝所を備え、聖地の役割を担い、信仰を集める場所であり、独立国として東南アジア、中国、朝鮮半島、日本と経済・政治的に交流、優れた琉球文化を発展させた証拠。これら文化的伝統・『信仰形態』を今日まで伝える貴重な遺産群、
- * この琉球王国の歴史的価値を語る上で不可欠。
- * 国の史跡指定と復元建物がないだけ(調査不足?)
- * 琉球王国遺産の文化的完全性を訴えるべき!

前回スライド

浦添グスクと首里城の関係

- * 琉球王国の歴史を語る上で、「首里城」と「浦添グスク」の関係はかなり重要ではないのか?
- * 首里城付近、識名園等の遺産群では、回遊性が低い点が問題になっている。孤立した文化遺産(観光地)と見られ、琉球王国の歴史を訴える上でも問題
- * 首里城から浦添グスクの宿道(海道)は琉球王国の歴史を語る上で最も重要な路、地域ではないのか?
- * 戦災を受け、開発が進み、古の都の様子は見えにくいものの、ここで歴史を取り戻さなければ、琉球王国の歴史を語る文化遺産は散在したままに終る。

前回スライド

琉球王国のグスク及び関連遺産群

資産名	国内法上の指定区分	遺産条約上資産種別
今帰仁城跡	史跡	遺跡
座喜味城跡	史跡	遺跡
勝連城跡	史跡	遺跡
中城城跡	史跡	遺跡
首里城跡	史跡、重文建造物	遺跡
園比屋武御嶽石門	史跡、重要文化財	記念工作物
玉陵	史跡、重要文化財	記念工作物
識名園	特別名勝	遺跡(文化的景観含)
斎場御嶽	史跡	遺跡(文化的景観含)

沖縄モルレル各駅乗降客数

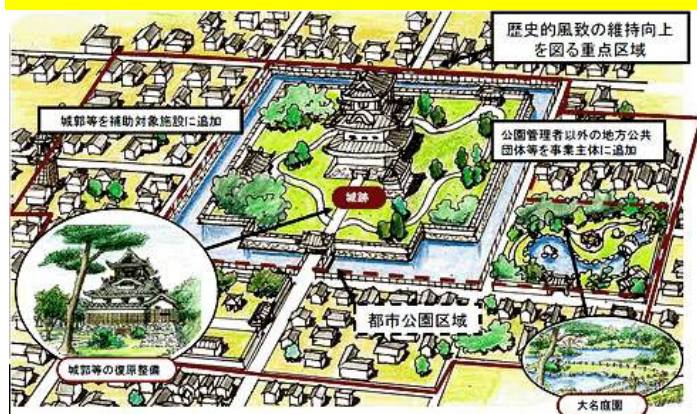
駅名	乗降客数 (千人)	駅名	乗降客数 (千人)	駅名	乗降客数 (千人)
那覇空港	1,128	美栄橋	615	首里	583
赤嶺	526	牧志	515	石嶺	351
小録	872	安里	592	経塚	212
奥武山公園	516	おもろまち	1,198	浦添前田	162
壺川	495	古島	677	てだこ浦西	406
旭橋	872	市立病院前	264		
県庁前	1,459	儀保	335		

琉球王国のグスク及び関連遺産群

資産名	国内法上の指定区分	遺産条約上資産種別	アクセス
今帰仁城跡	史跡	遺跡	空港から車で2h45m
座喜味城跡	史跡	遺跡	〃 車で1h、バスで1h半
勝連城跡	史跡	遺跡	〃 車で1h、バスで1h半
中城城跡	史跡	遺跡	てだこ浦西駅の先バス1h
首里城跡	史跡、重文建造物	遺跡	首里駅から徒歩15分で守礼門
園比屋武御嶽石門	史跡、重要文化財	記念工作物	首里駅から徒歩15分で守礼門の先
玉陵	史跡、重要文化財	記念工作物	車で首里駅徒歩15分で守礼門の手前
識名園	特別名勝	遺跡(文景含)	空港から車で30m、市内
斎場御嶽	史跡	遺跡(文景含)	空港から車で1h

景観法、歴史文化基本構想、歴史まちづくり法、文化財保存活用地域計画

- 73年間の「文化財保護法」、数重なる改正によって新たに登場した文化遺産マネジメント法制度
- 歴史文化基本構想(2006年)でその土地固有の歴史を語り継ぎ未来を考えていく
- 並行して整えられた街づくり法制度には、「景観法」(2004年)で“美しい国づくり”を進め、「歴史まちづくり法」(2007年)は文化財周辺を整備する
- これらの法律が人口減少時代に個性ある地域を創り、地方の自律を実現。その手法も20年で発展してきた。

歴史まちづくり法
都心の城(史跡)周辺整備事業補助制度

浦添グスクの史跡としての可能性

- 戦災と戦後の採石で遺構は失われたとされたが、1982-83年浦添市教育委員会発掘調査で遺構を確認。13世紀末以降、4~5期の積層した遺構、城門石垣・石塁・建物跡・井戸が残る。
- 城跡北側は、浦添ようどれ(英祖王と尚寧王の2つの陵墓)が、戦後の修復工事を経て残る。
- 国史跡に指定、発掘調査を行い、保存整備を図った。
- その史跡保存整備手法が大きく変化している。

聖域にふさわしい浦添！

- 平和とは、戦争で失われた人々を悼み、その尊厳を守り、静謐と安寧を保つ境地
- 歴史を振り返り、琉球王朝の御霊とともに、20世紀で失われた命を悼む場所
- 沖縄の自然はさらに美しく、平和を祈る人々の思いが顕れる美しい街並み
- 沖縄の祈りの心でアジア人々の魅了する
- 沖縄の平和の心を景観で示す

国際化する沖縄観光！

- 877万人の入込客(2016年)の内、213万人が外国人(4人に一人)。2021年には、1200万人の内400万人(3人に一人)に！
- 中国、台湾、韓国がその中心、8割に！
 - 東アジアの観光客の目に映る沖縄とは？
 - 沖縄は日本？それとも、文化遺産なら琉球王国？東アジアの交流拠点？
- 沖縄の文化遺産の意味が変わる！？

どんな沖縄、そして浦添に？

- 東アジアは未だ平和とは呼べない不安定な地域、朝鮮半島、中国・台湾、尖閣諸島、南シナ海、不安を感じる人々に沖縄の20世紀の歴史はどう映るのか？
- 亜熱帯の沖縄の自然は美しく、平和を念ずる人々の思いが美しい街並みを彩る
- 沖縄の豊かな暮らしで観光客を魅了する
- 沖縄の平和は文化で語る

聖域にふさわしい景観とは？

- その場所の尊厳を守り、静謐な環境を保つための“眺望景観”(眺めと見晴らし)
- 亜熱帯の豊かな自然の美しさにふさわしい都市空間は“デザインガイドライン”で！
- 無用な看板(広告物)を外し、“広告物規制”で店を、“公共空間ガイドライン”で街角を美しく演出する
- 我儘勝手に建てず、皆で“高度規制”、家並み町並みを揃える